

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 4271101786 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 ドリーム福祉介護支援サービス | | |
| 事業所名 | グループホーム ドリーむ荘 | | |
| 所在地 | 〒851-2123長崎県西彼杵郡長与町平木場517-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年 11 月 4 日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年 12月 10日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構 | | |
| 所在地 | 〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成 22 年 11 月 26 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ホーム全体が明るく、笑顔が多い。 ・ゆっくりと利用者者と職員が向き合い、話し合い、楽しいホーム。 ・一人一人に会った時間を過ごして頂き、のんびりと生活をしている。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>今年度は、昨年初回で受けた「介護サービスの情報公表調査」によりマニュアル、書類の整備に取り組んだことが支援の見直しと再確認の契機となった。職員の意識の変化が徐々に現れてきたことを挙げて、プラン作成や研修参加時に振り返りが個々に出来るようになったこと、指示待ちではなく整備された書類を職員自身が目を通すことで考える機会が増え、幹部職員のフォローで済むようになったとしている。更に、この二年は異動もなく職員は安定しており、代表者をはじめ職員間の信頼関係が深まってきている。理念に沿った「ゆっくり」支援を心がけ、気持ちの余裕を持って利用者に寄り添い気持ちを受け止める為に、意識的にコミュニケーションを多くとる様子がわかる。年々の課題に取り組みながら、現在はより深く、利用者に関わろうとするあたたかな支援へ向け、日々努めている。</p> |
|---|

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 新理念を掲げて一年が過ぎ、徐々にホーム全体に馴染んできている。又、地域の皆様に溶け込むように行事事への参加も多く持つようになり、どリーむ荘という施設を知ってもらうように努めている。 | 「皆でいっしょに、ゆっくり、楽しく」の理念が浸透してきている。出勤時に理念への意識付けをして、業務に追われ、忙しくすることのないよう支援に努めることを目指している。また、職員の意識で利用者も変わると伝えている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の子供たちによる太鼓や、保育園児の訪問交流を継続し行っている。地域開催の夏祭りや花火大会にも参加続けている。 | 事業所の管理者が、今年4月より自治会に加入しゴミ当番など地域活動に参加している。それにより地域の情報把握が早くなり、また地域からも事業所や介護に関するお尋ねがあるなど、今後の関わりの足がかりが出来た。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 子供達との交流に伴い、保護者の方や先生方に理解していただくように努めている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月に一度のペースで開催し、当初に比べ意見交換も多く行えるようになってきている。様々な視点からの意見を聞くことができ、サービス向上の参考にさせて頂いている。 | 議題内容に応じて参加者それぞれの立場からの質疑応答が活発になってきており、今年度からは地域消防団団長も参加メンバーになっていただいたことで更に会議が充実することに期待している。 | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 担当者と連絡をとりながら、法改正に伴う事務手続きや情報収集に努めている。 | 行政主導で立ち上げた「ケア会議」は町内事業所が引き継ぎ、活動を続けている。行政担当者もコメンテーターとして会に参加する折は、法改正の報告など情報収集の機会ともなっている。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 講習会や勉強会を通じてホーム全体で取り組み、身体拘束廃止に努めている。 | 職員全員が外部研修を受ける機会は得られていないが、今回身体拘束に関する事業所のマニュアルを作成し、整備する経過で職員全員で身体拘束、言葉の拘束に関して基礎的なことを再確認する機会となった。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 講習会に参加したり、ホーム全体にて勉強会を開催したりと、ホーム全体で取り組み虐待のないように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 講習会や研修会に参加し学ぶ機会を設けている。又、ホーム独自で勉強会を開催し、職員全員が把握できるようにしている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 理解・納得を得る為に説明の際には十分な時間を取り、分かりやすく丁寧に説明するように心がけている。又、一方的に説明するのではなく、時に確認を取りながら説明している。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見・要望を出しやすいように、玄関先に用紙を設置している。又、平成21年10月には苦情解決第三者委員を設立している。 | 夏祭りへの家族参加が増えてきており、今年度は家族同士の交流の場面が見られた。日常的に家族の面会が多い為に、個別の意見聴取の機会として管理者はじめ職員が対応に心がけている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、全体会議を行い、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。日頃からチームワークの取れた関係を保っている。 | 会議は月1回の開催としているが、案件により必要性があれば随時開催している。職員の異動はほとんどなく気心の知れたスタッフ間で本音が言い合える関係であり、代表者へも意見、要望は伝えやすい信頼関係が作られている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 運営者は現場で起きている状況や変化を知り、職員の努力や成果を把握している。又、必要時は資格試験の情報提供を行い、資格取得の際には条件の整備の時に参考になっている。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 常勤職員同様に、パート職員もチームの一員とし、研修会などへの参加の機会を与えている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 町内のグループホームのケア会議に参加し交流ができている。相互訪問や、ホーム見学も代表者自ら率先して行い、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人様が困っている事や不安に思っている事に対し、十分な時間を取り分かりやすく丁寧に対応する様に努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスを開始する前に、安心・納得を得られる様にホーム見学をして頂いている。その際十分に説明をし意見交換を行っている。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談などがあればその都度その方の立場や、何を必要としているのかを検討し対応に努めている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は常に人生経験の豊富な利用者の思慮深さや人格を尊重し、人としての多くの事を学んでいる。又、利用者の得意分野を發揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝する関係性を築いている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族との情報交換を密に行い、家族が不安や疑問を抱いたときには直ちに傾聴する姿勢を心がけている。又、面会時間が許す範囲内で食事介助や見守りなどの介護を共にを行っている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場所について、本人様や御家族より情報収集を行い、つながりを継続できるように努めている。時に友人やペットの訪問もあり楽しまれている。 | 家族の訪問は多く、毎週家族と外出される方もおられ、利用者の現状を把握していただくよい機会と感じている。受診支援の際に病院待合室で馴染みの方と会い、挨拶や会話を交わす機会も大切にしている。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | その方々の性格を把握し、お互いが立場を認識できるように職員は十分な観察・声掛けを心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用契約が終了しても、サービス利用期間に培われた関係性を大切に、御家族からの相談等があった時には相談役となっている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前に本人様の意向を確認し、御家族や関係者から情報収集を行っている。日々の関わりの中からその人らしい暮らし方を見出すようにしている。工夫によって、本人様の隠れた能力を見出すこともある。その都度ご家族に報告し、喜びを共有している。 | コミュニケーションの中で、利用者から初めて出てくる言葉や観察における気づきを記録に残して、情報共有を行ないプランに反映させている。職員との意思疎通が困難でも家族とは可能なこともあり、家族からの情報のリサーチは大切にしている。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者一人一人の生活歴や生活環境を把握するように努めている。面談時にはご家族・ご本人様にも来所して頂き、ホーム周辺の環境や建物などを見学することにより安心感を抱いて頂けるように心がけている。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その日その時にご本様がしたいと思うことを大切に、ご本人様の希望に沿った支援を心がけている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人様の思いや意向を尊重し、御家族や関係者からの情報を基に、職員全員で課題や支援のあり方を検討している。 | 計画書等重要書類に関する記入漏れや取り扱い整備に関しては徹底して見直しを行った。職員を担当制としてチームでプラン作成を行っているが、段々と職員が見極めが出来るようになり、プランに反映できていると感じている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の変化や特徴を個人記録に具体的に記録し、職員全員が情報を共有している。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人様やご家族の日々変化する状況や要望に応じて必要な時に、必要なサービスを提供できるように心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ご本人様の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア・消防や警察と協力し連携をとっている。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 緊急事態に対応できるように24時間体制の協力医療機関へ変更することについて、ご本人様やご家族に説明し了解を得ている。しかし希望があれば、これまでの係りつけ医の継続も可能である。 | 利用者全員の主治医は協力医療機関となっており、夜間、緊急時の対応も可能である。受診支援を行なっているが、他科受診は家族支援でお願いしている。市医師会の輪番制ローテーション表で夜間当番医をチェックし備えている。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職の職員もあり、日常の健康管理と共に行っている。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際には主治医やご本人様の面会・面談を重ね、病状や身体レベルの状態を把握するように努めている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化及び終末期に向けた利用者に対する支援に対しては、利用者の御家族や担当医と十分な話し合いを持ち支援している。又、看取りに関しては医療行為が必要な場合を除き対応可能としている。いずれもご家族の協力は必要不可欠である。 | 重度化、終末期支援に関しては、緊急性はないが考慮すべき対象の利用者がいることから、職員間でも話し合っており、家族へも徐々に伝えていく。マンパワーの不足など、事業所で出来る支援の再検討の必要性を感じている。 | 具体的検討内容として、家族へお願いする協力内容の確認とその文章化と、事業所で出来る支援内容の再確認や職員へのメンタルケアの準備などに、取り組んでいかれることに期待したい。 |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の判断・対応や予防・知識についての基本マニュアルを備え、職員全員が理解できるようにプリントやビデオで勉強し話し合っている。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回避難訓練を行っている。その内1回は消防署の方の指導を受けている。近隣の方には書面にて協力体制を得ている。 | 夜間想定での訓練も行っており、非常時のマニュアルに従って行動する準備も整っているが、近接した一般の民家も少ない立地であり、夜間体制に多少の不安も抱いている。 | 運営推進会議に参加されている消防団団長にも助言をいただき、近隣への協力要請に関して、具体的な内容を検討され話し合っていられる取り組みに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 排泄や更衣など、ご本人様にとって抵抗を感じるような事に対してはプライバシーに配慮した支援に努めている。又、プライドを損なわないような言葉掛けに努めている。 | 排泄時支援では職員と一対一の状況を確認し、失禁は他の利用者に気づかれないように配慮している。利用者の性格や状態を見極め、距離感を量りながら、親しくとも礼儀を忘れない言葉使いを心がけている。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員一人一人が利用者と密にコミュニケーションを取るよう努め、思いや希望を訴えやすいような関係を心がけている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 極力、利用者一人一人のペースに合わせ希望に沿うように心がけている。しかし、やむを得ない状態の時には十分に説明をし理解を得るように努力している。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎朝鏡の前に立ち、出来る限りご自分で身なりを整えて頂くように援助している。又、出来ない部分を職員がフォローに入っている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 夏場はホームの庭で育てた野菜を皆で収穫し食材としている。又、その方々の能力に応じて野菜の皮むきや食器洗い・食器拭きなどを職員の介助のもと分担して行っている。 | キッチンがリビングと一体化しているので、調理中の音や匂いで利用者は食事を楽しみにされている。季節ごとの行事食を取り入れた献立は家庭的で、食後の語りもゆっくりとした時間が持たれており食事を楽しむ支援がなされている。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日の食事やおやつの摂取量をチェックし、食べ残しなどの有無を確認している。水分摂取にも心がけており、入浴後や外出時・外出後などには水分補給に努め、飲み終わりまで必ず確認するようにしている。又、月に2回体重測定を行い、変動の著しい時は医師へ相談している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨きやうがいを行っている。介助の必要な方は職員の付き添いのもと行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 出来る限りトイレでの排泄を目標に自立支援を行っている。時間毎のトイレ誘導にて排泄を促すことにより失禁が減ったという例もある。 | 日中はほぼ全員が布パンツで過ごされ、時間間隔を把握し早めの声かけで誘導している。夜間もトイレを利用する為居室ドアを開けて、目隠しの暖簾越しに職員が気配を察知して支援している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日中に軽体操を行い便秘予防を図ると共に、運動不足解消にもつながっている。食事にも配慮し、食物繊維を多く含んだ野菜を提供している。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は週に3回としている。その時その時の入浴をゆっくりと楽しんで頂くようにしている。 | 冬場は週に2回としているが、汚染時など状況に応じて清潔保持に随時対応している。利用者全員がお風呂を好まれており、リラックスタイムとなるよう支援に努めている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 気候に応じた換気を行い、衣類や布団などの調整を支援している。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬一覧表を作成し目的や副作用・用法・用量を職員全員で確認し合っている。又、飲み忘れや誤薬を防止する為に二人の職員で薬包を確認し服薬チェックを行っている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前に生活歴を聴取し、その方の趣味や特技・以前の職業などから、どのような事に興味を持ちどのような事を好むのかを検討している。時には気分転換にドライブなどに誘っている。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望に沿えるように努力し、家族の協力も得ながら行っている。又、中庭でランチやおやつを楽しんだり、季節ごとの行事に参加できるように支援している。 | 家族と外出される利用者もいるが、日常は芝生の中庭や近隣を散歩している。外出傾向がある利用者へは、様子を察知してドライブへお誘いし、気分転換を図っていただくようにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 小銭程度の所持に控えて頂き、買い物などへは職員が付き添い混乱を防ぐように配慮している。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 要望に沿えるように支援している。例えば、字を書くのが困難な方には代筆を、耳が遠くて電話での会話が困難な方には仲介役となっている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下やトイレには絵や詩を飾り、リビングにはソファでゆっくりと寛げる空間作りに心がけている。又、夏場の強い日差しの時にはすだれを使用したりと、少しでも快適に過ごして頂くように配慮している。 | 日あたりのよいキッチンと一体化したリビングが生活の中心である。人間関係に配慮して直線に並べていたテーブルをアイランド型に配置を変えて、クリスマスツリーが映えるようにソファも置いて、季節感と変化を楽しんでいただいている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間にはソファを置いてあるので、利用者同士で会話を楽める空間作りに心がけている。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の家具などは以前使用していた馴染みの物を使用するように心がけている。そのことによって居心地良く過ごして頂くように努めている。 | 備え付けのクローゼットがあり収納に活用されているが、持ち込みの寝具や家具、家族の手作りのクッションなどで居心地のよい落ち着いた空間としている。利用者の動線によってベッドの配置を変える配慮もなされている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来る事はご本人様にして頂くように促し、困難な事に対しては職員が声掛けを行い、必要に応じては介助を行っている。 | | |